



第2期末(2026年4月24日)	
基準価額	11,912円
純資産総額	3,624百万円
第2期	
騰落率	31.5%
分配金(税込み)合計	0円

・騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入しております。
 ・純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧・ダウンロードいただけます。

【運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法】

右記URLにアクセス⇒「なかの世界成長ファンド」⇒「レポート・運用報告書」を選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

2025年4月25日～2026年4月24日

第2期 決算日 2026年4月24日

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、「なかの世界成長ファンド」第2期決算を行いました。

当ファンドは、主として国内外の投資信託への投資を通じて、世界の成長企業(クオリティ・グロース企業)に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後も皆さまと一緒に長期投資の旅をすべく努めて参りますので、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

なかのアセットマネジメント株式会社

東京都中央区日本橋兜町 5-1

電話番号：03-3662-1401

受付時間：9:00-17:00(土日祝日、年末年始を除く)

ホームページ：https://nakano-am.co.jp/

ごあいさつ

長距離列車「なかの号」が長期投資の旅に出発してから、2年が経過しました。この間、世界は大きな構造転換期に入っています。ロシアによるウクライナ侵攻以降に定着したインフレ経済は、米トランプ政権の再登場によって、いっそう「インフレを前提とする社会」へと傾きつつあります。トランプ関税に象徴される米国第一主義の政策は、国際貿易、政治体制、安全保障の枠組みにまで再編を促し、グローバル経済の不確実性をさらに高めました。その結果、株式市場の価格変動も拡大し、トランプ大統領の一挙手一投足に左右される局面が続いたといえます。さらに2026年に入り、米・イラン戦争の勃発は原油価格の急騰だけでなく、エネルギー供給制約を通じてインフレ圧力を一段と強めています。今後は、その影響が実体経済にも徐々に表れてくる局面に入ったとみています。

足元では、AI（人工知能）進化への先行期待を背景に、AI・半導体関連企業群の株価が大きく押し上げられてきました。一方、なかのアセットの長期投資は、こうした過度に楽観的なマーケットとは一線を画すスタンスを貫いています。私たちは、これからの10年を見据え、安定した利益成長軌道を描けるという強い仮説を持てる企業群でポートフォリオを構築し、その確信度を絶えず検証し続けています。このような強い企業を選び抜く本格的な長期厳選運用は、市場がいざい定期間の調整局面に転じた際にも粘り強く踏ん張り、真価を発揮すると考えています。

世界の株式市場では、すでに始まっている不可逆的な社会・経済構造のパラダイムシフトを見過ぎていくかのように、楽観的なモメンタムが続いています。しかし、「なかの世界成長ファンド」は、新たなメガトレンドのもとでも普遍的な価値を保ち続ける、安定した事業成長力に立脚したグッドカンパニーを集積する本格的なアクティブ長期投資ファンドです。やがて、新たな時代の枠組みに着実に適応した強い企業群が、長期的な運用成果の源泉になるはずです。3年目を迎える「なかの号」の旅についても、その果実に向けて末永くご一緒くださいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

代表取締役社長 中野 晴啓

運用担当者の紹介

代表取締役社長/最高投資責任者

中野 晴啓

役割 最高責任者として投資戦略の意思決定

運用業務経験 33年

経歴

1987年明治大学商学部卒業。旧セゾングループの投資顧問会社にて債券ポートフォリオを中心に資産運用業に従事した後、2006年セゾン投信株式会社を設立。2023年6月に代表を退任後、同年9月なかのアセットマネジメント株式会社を設立。



運用部長

石田 朗

役割 企業の調査および分析、投資戦略の策定、ポートフォリオ構築

運用業務経験 30年

経歴

山一証券にて外国債券ディーリング業務等に従事、ゴールドマン・サックス、フィデリティ、ピクテ、HSBCの各運用会社にて資産運用業に従事した後、2026年4月より現職。なかの世界成長ファンドの責任者に就任。

日本証券アナリスト協会検定会員、CFA協会認定証券アナリスト



※当ファンドの設定（2023年4月）以来、ポートフォリオマネージャーとして運用に携わってまいりました居林通は、2025年12月末をもって退任いたしました。

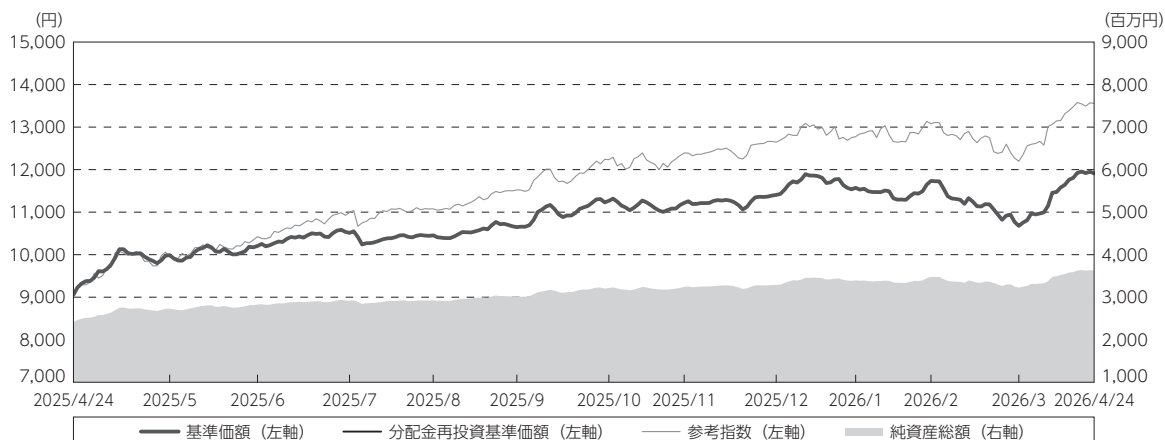
これを受け、2026年1月以降はチーフポートフォリオマネージャーである山本潤が当ファンドの運用を担当し、2026年4月以降は石田朗が運用を担当しております。

なお、本変更に伴う当ファンドの運用方針および運用プロセスに重要な変更はございません。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2025年4月25日～2026年4月24日)



期首：9,058円

期末：11,912円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：31.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み・円換算ベース)は、期首(2025年4月24日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み・円換算ベース)は当ファンドの参考指数です。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み・円換算ベース)は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、米ドルベース)をもとに、委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、米ドルベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を含む世界の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc.に帰属します。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

組み入れているファンドの多くが堅調に値上がりしたことから、基準価額は2,854円(+31.5%)上昇しました。当期末(2026年4月24日)の基準価額は11,912円となりました。

(マザーファンドについての記載となります)

【基準価額の上昇要因】

「アライアンス・バーンスタイン SICAVーグローバル・グロース・ポートフォリオ (Fクラス)」、「アライアンス・バーンスタイン・エマージング成長株ファンド (適格機関投資家専用)」、「コムジェスト世界株式ファンド (適格機関投資家限定)」、「ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAVーグローバル・インパクト・エクイティ・ファンド (クラスS、円建て)」の4本のファンドが基準価額の上昇に寄与しました。

【基準価額の下落要因】

「コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90（適格機関投資家限定）」ファンドが相対的に低迷しました。

1万口当たりの費用明細

(2025年4月25日～2026年4月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	65	0.605	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(37)	(0.343)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(25)	(0.229)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(4)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.014	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(1)	(0.014)	
(c) そ の 他 費 用	8	0.078	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(0)	(0.001)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ そ の 他 ）	(8)	(0.076)	信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	74	0.697	
期中の平均基準価額は、10,755円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

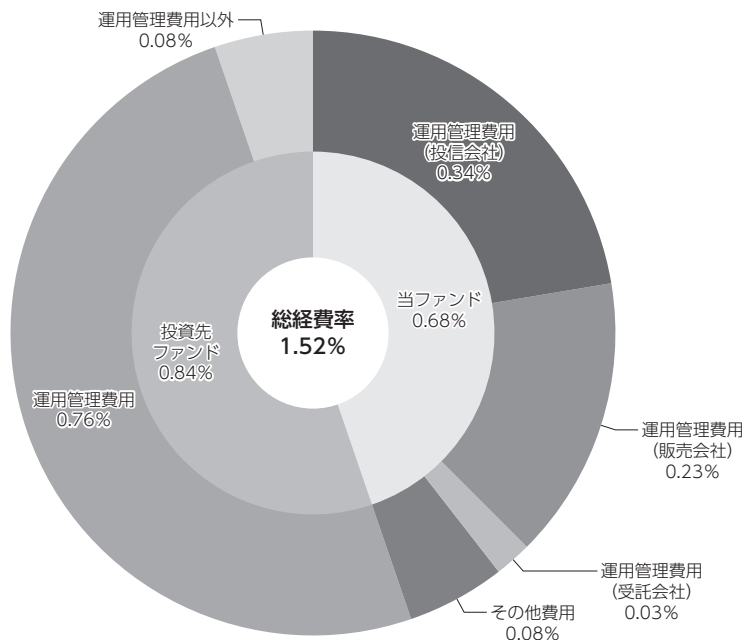
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.52%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.52
①当ファンドの費用の比率	0.68
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.76
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.08

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドのマザーファンドが組み入れている投資信託証券です。

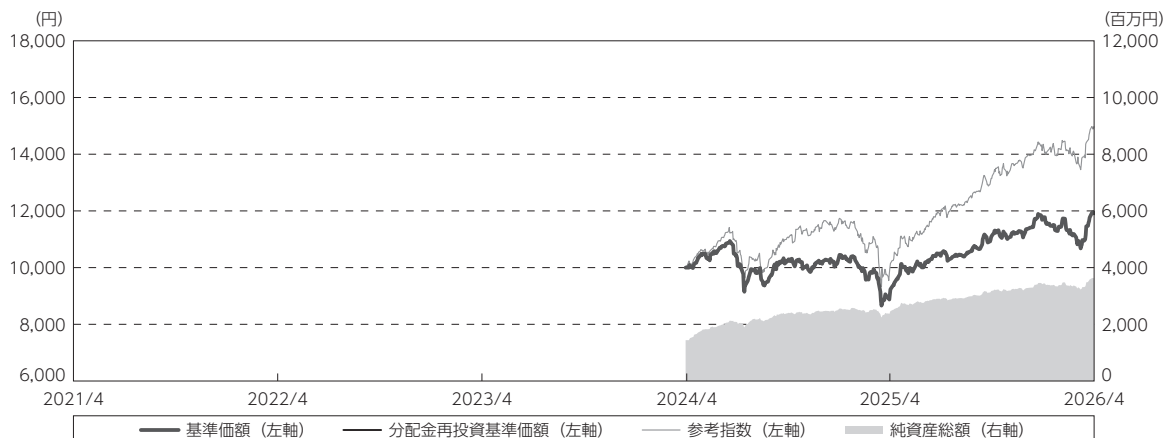
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2021年4月26日～2026年4月24日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(配当込み・円換算ベース)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2024年4月25日です。

	2024年4月25日 設定日	2025年4月24日 決算日	2026年4月24日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,058	11,912
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 9.4	31.5
参考指数騰落率 (%)	—	△ 0.1	49.7
純資産総額 (百万円)	1,440	2,413	3,624

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2025年4月24日の騰落率は設定当初との比較です。

(注) MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(配当込み・円換算ベース)は当ファンドの参考指数です。

参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

(2025年4月25日～2026年4月24日)

(マザーファンドについての記載となります)

【株式市場の概況】

今期前半（2025年春から初夏にかけて）は、トランプ政権による関税政策を巡る警戒感から、株式・債券・為替市場に不安定な動きが広がり、特に米国を中心に世界株式市場は調整局面となりました。その後は、政策発言の修正や関税交渉の一部進展、AI（人工知能）関連投資への期待を背景に、株式市場は持ち直しました。夏以降は、米国ではAI関連の大型テック企業が相場をけん引する一方、欧州では欧州中央銀行（ECB）の金融政策運営や財政拡張、防衛投資への期待を背景に底堅い動きが見られました。また、アジアや新興国にも資金が流入し、半導体や金融関連が下支えとなりました。2026年に入ると、中東情勢や原油価格、インフレおよび金利見通しへの警戒感から市場は一時的に軟調となる場面もありましたが、4月には地政学リスク後退への期待から持ち直す展開となりました。

【為替市場の概況】

円は対ドル・対ユーロともに、期間を通じて概ね円安傾向で推移しました。期初（2025年4月）は米国の関税政策や地政学リスクへの警戒感を背景に円安方向で推移し、その後も米連邦準備制度理事会（FRB）が高金利政策を維持する姿勢を示したことから、日米金利差を意識した動きが続きました。2025年12月には日本銀行が利上げを実施し、ドル/円は一時的に円高方向へ振れる場面も見られましたが、金融政策は引き続き緩和的と受け止められたことや米国金利が高水準で推移したことから、円高は長続きせず、2026年に入ってから円相場は概ね円安水準で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2025年4月25日～2026年4月24日)

(マザーファンドについての記載となります)

世界の優良成長株（クオリティ・グロース企業）への長期厳選投資という基本方針に基づき、当社の投資哲学と親和性の高い投資先ファンドを組み合わせ運用しています。前期末に構築したポートフォリオを基礎としつつ、質の向上を意識した運用を継続しました。当ファンドが投資対象とするのは、優れた事業モデル、健全な財務基盤、持続的な競争優位性、長期的な成長余地を備えた企業を厳選して組み入れるファンドです。

コムジェスト世界株式ファンド、コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90、アライアンス・バーンスタイン・エマージング成長株ファンド、アライアンス・バーンスタイン SICAV グローバル・グロース・ポートフォリオ、ティール・ロウ・プライス・ファンズ SICAV グローバル・インパクト・エクイティ・ファンド、TCWデュラブルグロースETFに加え、欧州の優良成長株に特化したメッツラー・ヨーロッパ・グロース・ファンドを組み入れ、地域分散とポートフォリオの質的向上を図りました。

ポートフォリオ全体では、高いROE（自己資本利益率）を維持し、優れた事業モデルや価格決定力、健全な財務基盤、長期的な利益成長への投資を重視しています。短期的な市場動向に左右されることなく、企業が獲得した利益を再投資し、企業価値を複利的に高めていく力を取り込むことを運用の中心としています。

期初（2025年4月）には、米国株式の比率をやや引き上げました。7月にはTCWデュラブルグロースETFを採用し、米国の耐久的な成長企業への投資比率を高めました。2026年2月には、欧州のメツラー・ヨーロッパ・グロース・ファンドを新たに組み入れ、地域分散とポートフォリオの質的向上を図りました。

投資先ファンドの運用体制や投資プロセスの継続性についても定期的な検証を行っています。その結果、スチュワート・インベスターズ・グローバル・エマージング・マーケット・リーダーズ・ファンド（クラスIII・円建て）については、運用チームの運用体制変更を受け、保有分をすべて売却しました。

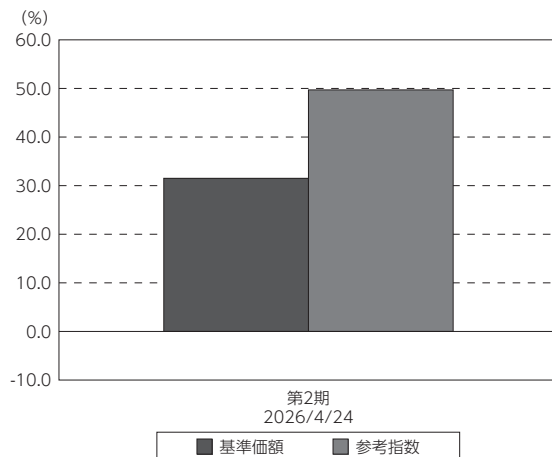
期末（2026年4月）時点のポートフォリオは、米国、欧州、アジア、新興国に分散し、いずれも長期の利益成長と資本効率を重視するファンド群で構成されています。市場の短期的な流行を追うことなく、投資先ファンドとの継続的な対話を通じて、保有企業のファンダメンタルズを確認しながら運用を行っています。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2025年4月25日～2026年4月24日）

当ファンドでは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右のグラフは、当ファンドと参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
 (注) MSCIオール・カンTRIES・ワールド・インデックス（配当込み・円換算ベース）は当ファンドの参考指数です。

分配金

(2025年4月25日～2026年4月24日)

基準価額水準等を勘案して、分配は行わないことといたしました。なお、留保された収益金につきましては、当ファンドの運用の基本方針に基づき運用させていただきます。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 2 期
	2025年4月25日～ 2026年4月24日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,911

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(マザーファンドについての記載となります)

長期的な企業価値の成長を重視し、優れたビジネスモデルと成長戦略を備えた企業に投資するファンドを組み入れる方針を継続します。投資先ファンドの運用チームとの対話を通じて、組入銘柄の事業価値、利益成長、資本効率、バリュエーションを丁寧に確認してまいります。必要に応じて地域配分や投資先ファンドの見直しを行います。短期的な市場動向に追随するために投資哲学を変更することはありません。受益者の皆さまの長期的な資産形成に資するべく、今後も投資方針に基づく運用を継続してまいります。

お知らせ

2025年4月25日から2026年4月24日までの期間に実施した約款変更は以下の通りです。

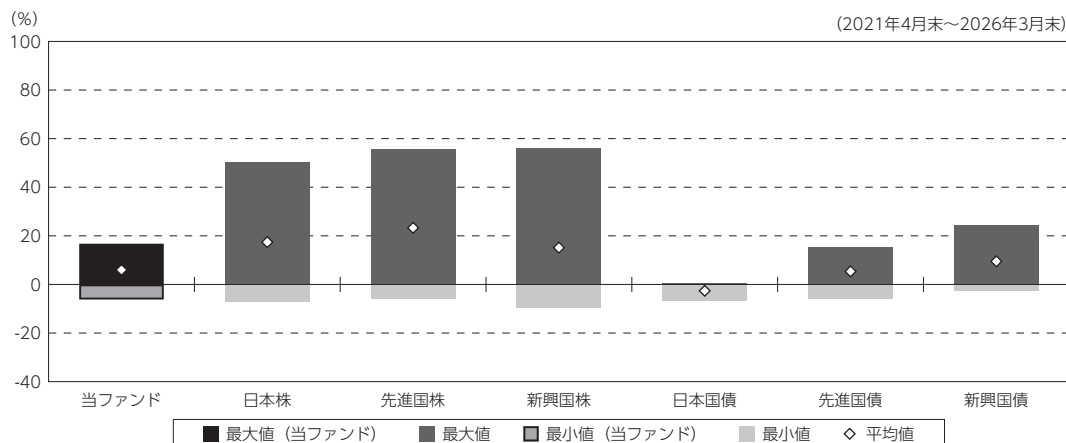
- 投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。<変更適用日：2025年6月12日>
- なかの世界成長ファンドのマザーファンドの投資対象ファンドの追加に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。<変更適用日：2025年7月25日>
- なかの世界成長ファンドのマザーファンドの投資対象ファンドの追加および削除、ならびに投資対象ファンドの名称変更に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。<変更適用日：2026年1月23日>
- 一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会が合併し、一般社団法人資産運用業協会へ名称が変更されたことに伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。<変更適用日：2026年4月1日>

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	国内外の投資信託への投資を通じて、世界の成長企業に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に運用を行います。	
主な投資対象	なかの世界成長ファンド	なかの世界成長マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	国内外の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	世界の株式に投資することで、日本以外の魅力的な投資機会も捉えることを目指します。長期の資産形成を目指して、長期視点で世界の成長企業（クオリティ・グロース企業）の株式に投資を行います。多面的な調査を行った上で、長期的に成長が期待される企業に投資をするアクティブファンドに、割安と考えられるタイミングで投資を行うことを目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。	
分配方針	毎決算時に、基準価額、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	16.8	50.5	55.7	56.3	0.6	15.3	24.5
最小値	△ 6.2	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 6.9	△ 6.1	△ 2.7
平均値	6.0	17.4	23.3	15.1	△ 2.6	5.4	9.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2021年4月から2026年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2025年4月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2026年4月24日現在)

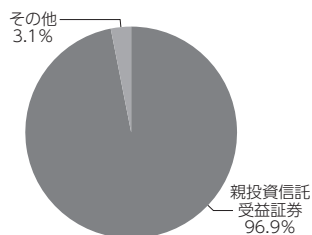
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
なかの世界成長マザーファンド	96.9%
組入銘柄数	1銘柄

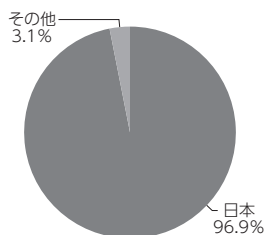
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

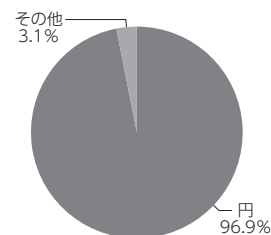
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

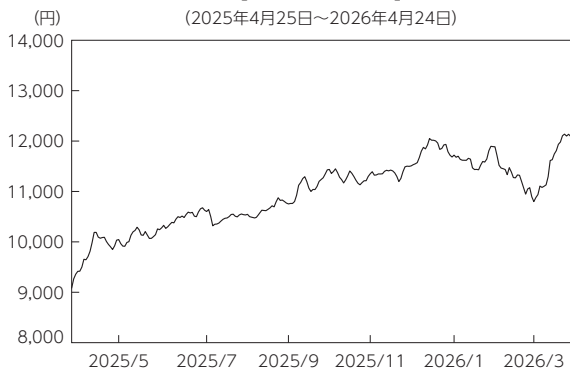
項目	第2期末
	2026年4月24日
純資産総額	3,624,758,553円
受益権総口数	3,043,039,119口
1万口当たり基準価額	11,912円

(注) 期中における追加設定元本額は815,980,705円、同解約元本額は437,311,839円です。

組入上位ファンドの概要

なかの世界成長マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2025年4月25日～2026年4月24日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	2 (2)	0.014 (0.014)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	9 (0) (9)	0.080 (0.001) (0.078)
合計	11	0.094

期中の平均基準価額は、10,862円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位ファンド】

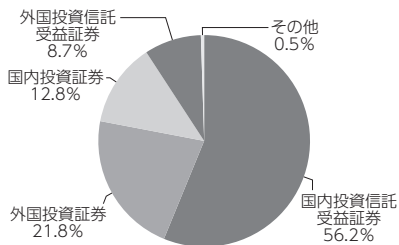
(2026年4月24日現在)

銘柄名	第2期末
	%
アライアンス・バーンスタイン・エマージング成長株ファンド	26.6
コムジエスト世界株式ファンド(適格機関投資家限定)	18.3
アライアンス・バーンスタインSICAV-グローバル・グロス・ポートフォリオ(Fクラス)	18.1
その他	36.6
組入銘柄数	7銘柄

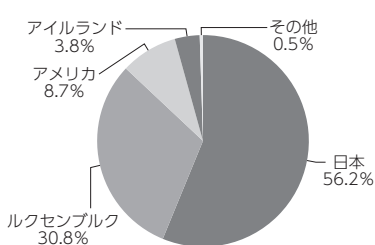
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

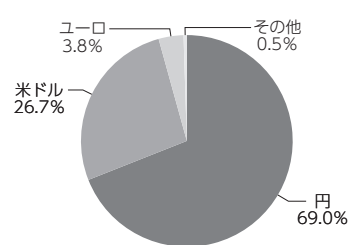
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

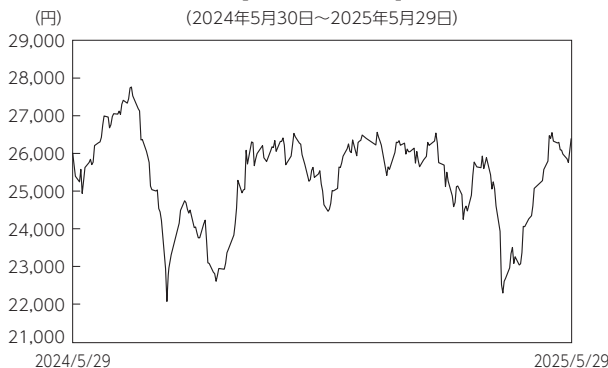
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

＜ご参考＞ アライアンス・バーンスタイン・エマージング成長株ファンド

【基準価額の推移】

(2024年5月30日～2025年5月29日)



【1万口当たりの費用明細】

(2024年5月30日～2025年5月29日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	251 (223) (6) (22)	0.990 (0.880) (0.022) (0.088)
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (オ プ シ ョ ン 証 券 な ど)	42 (37) (5)	0.166 (0.145) (0.021)
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	43 (43)	0.169 (0.169)
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (そ の 他)	38 (25) (1) (12)	0.148 (0.098) (0.004) (0.046)
合 計	374	1.473

期中の平均基準価額は、25,336円です。

- (注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
- (注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

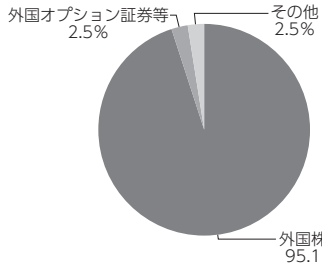
以下は「ABエマージング・グロース株式マザーファンド」の内容です。

【組入上位10銘柄】

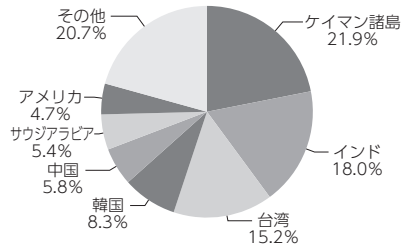
(2024年12月20日現在)

	銘 柄 名 称	投 資 比 率
		%
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	9.1
2	TENCENT HOLDINGS LTD	6.5
3	MEDIATEK INC	3.2
4	SK HYNIX INC	3.2
5	MEITUAN-CLASS B	3.1
6	HDFC ASSET MANAGEMENT CO LTD	2.6
7	MACROTECH DEVELOPERS LTD	2.6
8	HDFC BANK LIMITED	2.6
9	BROADCOM INC	2.5
10	FPT CORP(CW/MAQ)12/15/2025	2.5
	組入銘柄数	58銘柄

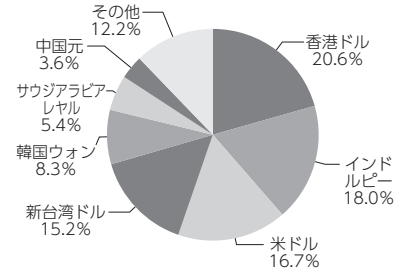
【資産別配分】



【国・地域別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は、実際に運用を行っている親投資信託の純資産総額に対する評価金額の比率です。

(注) 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

(注) 国・地域別配分は、アライアンス・パースタイン・エル・ピー社などの判断に基づいて分類しております。

(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国・地域別配分、通貨別配分のデータはマザーファンドの決算日時点の内容です。

＜ご参考＞ コムジェスト世界株式ファンド（適格機関投資家限定）

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2024年12月31日～2025年12月30日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	198 (128) (63) (7)	0.968 (0.627) (0.308) (0.033)
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	5 (5)	0.025 (0.025)
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	4 (4)	0.021 (0.021)
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (そ の 他)	7 (6) (1) (0)	0.034 (0.029) (0.005) (0.000)
合 計	214	1.048

期中の平均基準価額は、20,426円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。信託報酬＝各期中の平均基準価額×信託報酬率

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

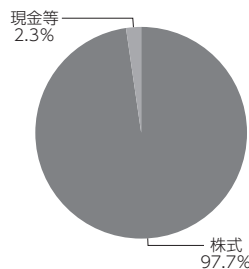
以下は「コムジェスト世界株式マザーファンド」の内容です。

【組入上位10銘柄】

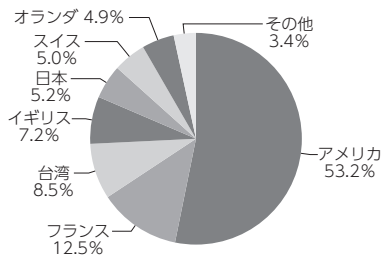
(2025年12月30日現在)

	銘 柄 名 称	投 資 比 率
		%
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	8.5
2	MICROSOFT CORP	6.5
3	ALPHABET INC-CL A	6.0
4	JOHNSON & JOHNSON	5.2
5	VISA INC-CLASS A SHARES	5.1
6	AMAZON.COM INC	4.1
7	INTUIT INC	4.1
8	LINDE PLC	4.0
9	ESSILORLUXOTTICA	3.7
10	S&P GLOBAL INC	3.5
	組入銘柄数	35銘柄

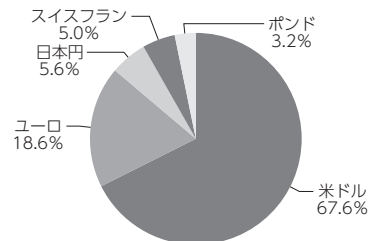
【資産別配分】



【国・地域別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は、実際に運用を行っている親投資信託の純資産総額に対する評価金額の比率です。

(注) 国・地域別配分は、コムジエスト・エス・エー社の判断に基づいて分類しております。

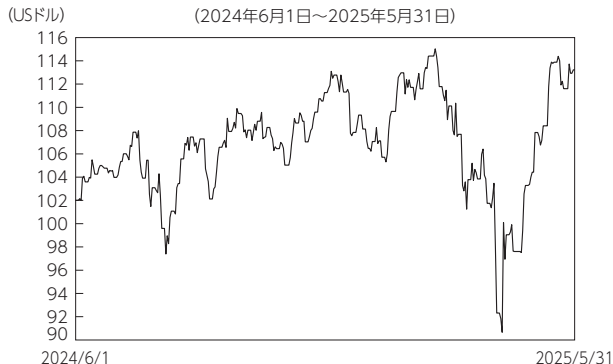
(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国・地域別配分、通貨別配分のデータはベビーファンドの決算日時点の内容です。

—— <ご参考> アライアンス・バーンスタインSICAVーグローバル・グロース・ポートフォリオ（Fクラス） ——

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。

【基準価額の推移】

(2024年6月1日～2025年5月31日)



【1万口当たりの費用明細】

(2024年6月1日～2025年5月31日)

当該情報は開示されていないため、記載しておりません。

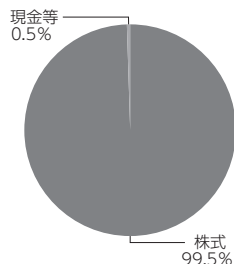
以下は、「アライアンス・バーンスタインSICAVーグローバル・グロース・ポートフォリオ」全体の決算日（2025年5月31日）の内容です。

【組入上位10銘柄】

(2025年5月31日現在)

	銘柄名称	投資比率
		%
1	Amazon.com, Inc.	5.3
2	Carvana Co.	5.0
3	Microsoft Corp.	4.8
4	Sea Ltd. (ADR)	4.6
5	ASML Holding NV	3.5
6	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd. (Sponsored ADR)	3.3
7	3i Group PLC	3.2
8	Novo Nordisk A/S - Class B	3.0
9	S&P Global, Inc.	2.8
10	Visa, Inc. - Class A	2.8
	組入銘柄数	51銘柄

【資産別配分】



【国別配分】

国別配分については開示されていないため、記載しておりません。

【通貨別配分】

通貨別配分については開示されていないため、記載しておりません。

(注) 資産別配分は、実際に運用を行っている親投資信託の純資産総額に対する評価金額の比率です。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークとして算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。